令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　戸ノ上　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、３年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

友人関係に満足する生徒が全国平均より高い状況があるので、今後も、この項目が高い数値が出せるように日ごろから生徒の様子を見守り、声掛けを行う。
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

(1)　全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

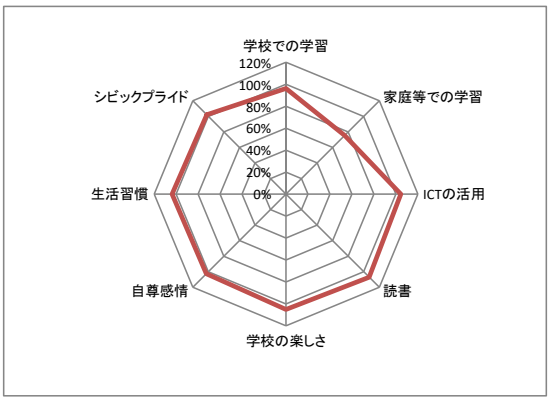
⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	定期考査での、記述問題の割合を増やし、解答を作成することへの抵抗が減り、無回答が少なくなった。しかし、出題者の意図を捉えて表現する力に課題が見られ、このような問題への無回答は多い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	

数学	全体的な傾向や特徴など	授業では、小テストやワークでの反復練習を行い、基礎計算力向上に取り組んでいる。「関数」、「図形」分野の正解率が低く、今後手立てをとる必要がある。「データ活用」分野に関しては、説明する問題でも全国、県の平均に近い正解率であるので、引き続き様々な問題に取り組みたい。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	空間における平面が同一直線上にない３点で決定されることを理解しているかどうかをみる問題	

英語	全体的な傾向や特徴など	「聞くこと」「読むこと」「書くこと」に関しては、日常的な話題について短い情報を正確に聞き取り、事実と考えを区別して読むことはできている。日常的な話題に関する文章の概要をとらえ、社会的な話題について自分の考えや理由を表現することに課題がある。「話すこと 」に関しては、自分の考えを話すことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる問題	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

（例）
- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。
- 主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進　め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。
- 「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

ICT機器を多くの先生方が授業に取り入れているため、生徒もICT機器を使って調べ、意見をまとめることがほとんどの生徒ができる。道徳科では、自らの考えをもち、級友の意見を参考にみんなの最善解を探すことができる生徒を育成する。英語科では、長文を覚え書くというテストを行い、長文の概要をつかむことを行ってきた。

②　家庭生活習慣等に関する取組

友人関係に満足する生徒が全国平均より高い状況があるので、今後も、この項目が高い数値が出せるように日ごろから生徒の様子を見守り、声掛けを行う。

スマホの使用時間が長く、夜遅くまで使用しているようである。スマホ２２時OFFを守る取り組みや家庭との連